

3. 基本方向と将来都市構造

3-1 基本理念とまちの将来像

地区の現況・まちづくりの課題を踏まえ、まちづくりの基本理念を掲げ、目指すべきまちの将来像を設定する。

(1) 基本理念

■ 海を体感できるまちづくり

対象区域は、重要港湾小名浜港に隣接しており、「海」や「港」は小名浜らしさをイメージさせる重要な要素である。

このような地域特性を活かし、道路、公園等の都市施設整備や街並み景観においても、開放的な「海を体感できるまちづくり」を推進する。

■ 歴史と自然を活かしたまちづくり

市街地には、数多くの神社、仏閣等が立地しており、米野地区にある陣屋跡は江戸時代に幕府の天領だった歴史を今に伝える。

また、小名川、富ヶ浦公園等の自然空間は市街地に潤いをもたらしている。

地区における、歴史・文化資源や自然環境は地区の財産であるとともに、住民の心の拠となっていることから、それらを積極的にまちづくりに取り入れ、歴史と自然を活かしたまちづくりを推進する。

さらに、環境に配慮した循環型社会形成に向けた取り組みを促進する。

■ 歩きたくなるまちづくり

都市は人間らしい生活を営む条件として、住む、働く、集う、休む、楽しむなどの基本的な機能を備えていることが必要であるが、まちづくりの視点で考えると、交通の利便性が高く、防災、防犯における安全性が確保され、バリアフリーに対応した快適なまちづくりが望まれる。

「海」「歴史」「自然」などの地域資源を効果的に活用し、来訪者と居住者がいきいきと交流できる、回遊性のある安全・安心な「歩きたくなるまちづくり」を推進する。

(2) まちの将来像

小名浜港は、漁港、廻り米積出し港、工業港、物流港、そして海をテーマとする観光施設へと変化してきた。

市街地は「みなと小名浜」の中心地区として、多くの商店や事業所等が立地しており、また、点在する神社や仏閣、江戸幕府の直轄領（天領）であった歴史を今に伝える陣屋跡、当時の豪商文化の面影を残す「うだつのある家屋」等は、歴史と文化の香りがする街並みを形成する一因となっている。

このような小名浜らしさを将来も継承しながら、新しい時代にも対応した小名浜地区の目指すべき将来の姿を、次のとおり掲げる。

第一に、「海」、「港」の雰囲気を活かした「海が感じられるまち」

第二に、「歴史」、「自然」を活かした潤いのある「人間主体のまち」

第三に、地域の特性を効果的に活用し、回遊性のある「歩くのが楽しくなるまち」

これらを活かしたまちを形成することにより、住む人、訪れる人がほっとするような港まちを目指し、まちの将来像を次のように掲げます。

海が感じられ、歩くのが楽しくなるまち、
ほっとポートおなはまの創造



まちなかの賑わいの通りイメージ

3-2 基本方向

まちづくりの課題を解決するために取り組むべき基本方向を示す。

■ 貨物ターミナルの移転促進と、 港と一体的なまちづくりに寄与する移転跡地の有効活用

港と市街地を分断している福島臨海鉄道（株）貨物ターミナルの移転を促進し、移転跡地については、港と市街地の連携強化により港の賑わいを地区全体に波及させる新しい都市機能の受け皿として有効活用を図る。

■ 港と市街地を直結する（都）平磐城線の整備促進と、 新しい小名浜の顔となる街並みづくり

（都）平磐城線は、平～小名浜間をネットワークする骨格道路であるとともに、小名浜市街地と港を直結する主軸であることから、道路整備に併せ、沿道土地利用の高度化や港まちをイメージする街並みの形成を図り、地区住民が誇りに思え、また、来訪者が楽しめる沿道まちづくりを推進する。

■ 魅力と活力のあるまちなか商店街の形成

本町通り等のまちなかの商店街は、近年の消費低迷やモータリゼーションの進展等の影響により、空き店舗や駐車場等の低・未利用地が目立ち、賑わいが低下している。

また、十分な歩行空間が確保されていないなど、良好な買い物環境が整備されていない状況にある。

そこで、魅力と活力あるまちなか商店街として再生するため、店舗や店先の魅力向上に向けた商店会等の取り組みと、安心して歩ける歩行空間やポケットパーク等の基盤整備が有機的に連携したまちづくりを推進する。

■ 歴史を活かし、自然と親しむまちづくり

神社や仏閣等の歴史・文化資源、小名川・富ヶ浦公園等の自然空間を地区の財産として保全し、まちづくりに積極的に取り入れるなど、地区特性を活かしたまちづくりを進めることで、自分の居住する地区に対する住民の誇りと愛着の醸成を図る。

3—3 将来都市構造

基本方向に示した考え方を踏まえ、都市の骨格を構成する拠点と軸により、将来都市構造を設定する。

■ 拠点

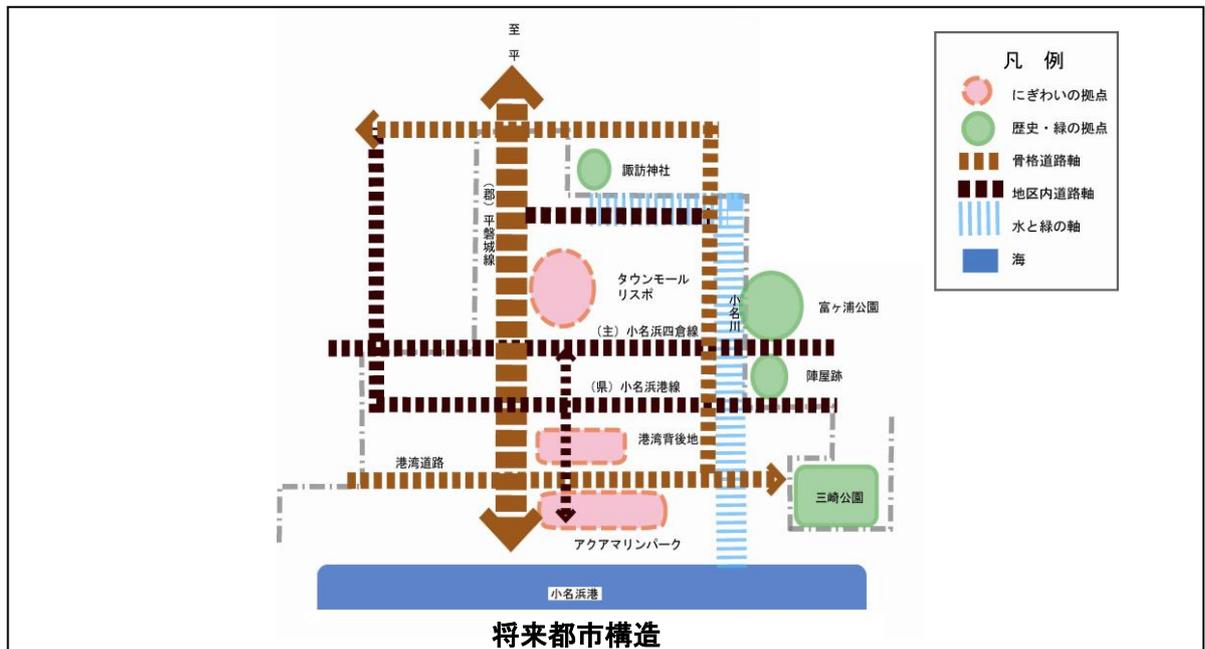
アクアマリンパークやタウンモールリスポ周辺の商業施設等を「にぎわいの拠点」、市街地に潤いをもたらす富ヶ浦公園や小名川、市内各所に点在する神社・仏閣などを「緑と歴史の拠点」と位置づける。

■ 軸

地区外からの交通を円滑に誘導する軸を「骨格道路軸」、地区内における拠点間をネットワークする軸を「地区内道路軸」、小名川沿道等の散歩やサイクリングなどが楽しめる軸を「水と緑の軸」と位置づける。

■ ネットワーク

各拠点を軸で有機的にネットワークすることにより、まちなかを楽しみながら歩くことができる構造とする。



- にぎわいの拠点：人が集まり、交流する拠点としてアクアマリンパーク・港湾背後地等を位置づけて、にぎわいのあるまちづくりを先導する。
- 歴史・緑の拠点：陣屋跡から米野通りにかけての米野地区や、市街地 周辺に緑豊かな自然空間を残す富ヶ浦公園は、歴史と緑を活かしたまちづくりを進める拠点として位置づける。
- 骨格道路軸：(都)平磐城線など、地区の外周等に配置される幹線道路を、周辺地区とネットワークする道路軸として位置づける。
- 地区内道路軸：地区内をネットワークする道路軸として位置づける。
- 水と緑の軸：歴史資源である神社・仏閣や、市街地における唯一の水辺である小名川等をネットワークし、歴史・自然を感じながら散歩やサイクリングが楽しめる歩行軸として位置づける。